

《シンポジウム》

復興の先を見据えた地域づくり ～住民の主体性を考えた復興支援のあり方～

日本NPOセンターでは、岩手、宮城のNPO 3団体と共に、住民が自らの役割を持つことにより、住民と地域にどんな変化が起こるのかを3年間にわたって、定点観測しました。現地NPOの視点から、その実践と結果、そして教訓をお伝えします。

実践報告に加え、過去の災害における支援現場に立ってこられたゲストを交え、復興における「住民の主体性」が地域にもたらすパワーについて、パネルディスカッションを通して考えます。

2017年1月20日(金)



災害復興のその先を見越して、地域の未来をつくるために忘れてはならないものとは何なのでしょう？

これからの東北には、「必要な時に支えてもらえる場があること(居場所)」と同時に、「自分の力と役割を發揮できること(出番)」の両方が必要だと考えます。なぜなら、住民一人ひとりが役割を持ち元気であることが、コミュニティが元気になる循環を生み出すと考えるからです。

復興のためだけに限らず、あらゆる場所で、あらゆる地域課題に今後向き合っていくうえで、わたしたちが考えた「住民の主体性」の大切さとはなにかを、お伝えします。

東北の復興に関わる皆様、ぜひご参加ください。

- 日 時：2017年1月20日(金) 13:30～16:30
※終了後、会場にて交流会を行います(約1時間)
- 会 場：TKPガーデンシティ仙台 ホール21A
(宮城県仙台市青葉区中央1-3-1 AER 21階)
- 対 象：地域づくりに関わる組織、NPO支援組織など
ご関心のある方はどなたでも
- 定 員：50名(先着順)
- 参加費：無料

〈主催〉

特定非営利活動法人 日本NPOセンター

特定非営利活動法人 @リアスNPOサポートセンター

特定非営利活動法人 陸前たがだ八起プロジェクト

特定非営利活動法人 ウィメンズアイ

● キーノートスピーチ

「なぜ、復興に住民主体が必要なのか」

・今田 克司（日本NPOセンター）

● 現地NPOによる活動報告

「復興活動の現場で見えること、学んできたこと、伝えたいこと」

- ・特定非営利活動法人 @リアスNPOサポートセンター（釜石市）
- ・特定非営利活動法人 陸前たがだ八起プロジェクト（陸前高田市）
- ・特定非営利活動法人 ウィメンズアイ（南三陸町）

仮設住宅や小規模コミュニティにおける実践をお伝えします。

事業関係者の参加型で行う評価(MSC手法)などを通して見た、住民とコミュニティの変化の姿も交えてお話しします。

● パネルディスカッション

「地域の課題解決と住民主体 <災害復興> × <地域生活>」

- ・実吉 威さん（認定NPO法人 市民活動センター神戸 理事・事務局長）
- ・稲垣 文彦さん（公益社団法人 中越防災安全推進機構 震災アーカイブス・メモリアルセンター長）
- ・鹿野 順一さん（特定非営利活動法人 いわて連携復興センター 代表理事）
- ・コーディネーター 松田 曜子さん（長岡技術科学大学 准教授 / 震災がつなぐ全国ネットワーク 共同代表）

● メッセージ

・田尻 佳史（日本NPOセンター）



実吉 威さん



稲垣 文彦さん



鹿野 順一さん



松田 曜子さん

申込方法

いずれかの方法でお申込みください。

(1) ウェブサイトから)))

日本NPOセンター ホームページより、本シンポジウムの申込ページにおすすみください。

(2) E-mailまたはFAX・お電話にて)))

「ご所属」「お名前」「ご連絡先」をお知らせの上、お申し込みください。

〈宛先〉特定非営利活動法人日本NPOセンター（担当：山本）

TEL：03-3510-0855 / FAX：03-3510-0856

E-mail：ayamamoto@jnpoc.ne.jp

アクセス



* JR仙台駅 徒歩2分（JR仙台駅から2階デッキ直通）

復興の先を見据えた地域づくり～住民の主体性を考えた復興支援のあり方～

シンポジウム参加申込書

FAX：03-3510-0856

ご所属（団体名・会社名）		
お名前		
ご連絡先	E-mail：	TEL：